

科目概要

観光コンシェルジュ実習

北海道教育大学函館校

准教授 奥平 理

「観光コンシェルジュ実習」は、本学で地域の魅力を発見、発信できる人材の養成を目指して開設された「HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム」の構成科目の一つである。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大下での実習ということで、内容を「三密回避・オープンエア下実習」で実施した。

1. 授業内容

授業は11月4日から開始したが、冬季に屋外での実習が行われることを考慮し、12月で終了できるよう、全8回で構成した。授業内容は下記の通りである。

1回目(11/4) オリエンテーション(授業の進め方など)

2回目(11/11) 講義(ボランティアガイド育成事業について)

3回目(11/18) 講義(函館市内の観光ガイド3団体からの講義)

4回目(11/25) 体験実習(まちあるき体験・本学と亀田川の関係を知るコース)

5回目(12/2) 作業実習(ガイドコース造成)

6回目(12/9) 作業実習(ガイドコース造成)

7回目(12/16) 体験実習(湯川の歴史とグルメを味わおう)

8回目(12/23) 体験発表会・総括(函館市内の観光ガイド3団体からの講評など)

2. 観光ガイド三団体からの講義

3回目の講義で函館市内の観光ガイド3団

体に依頼し、各団体の活動内容等をお話いただいた。はじめに、観光ボランティア「一會の会」より「おもてなし」と「コンシェルジュ」の意味と重要性について説明があった。次に自然倶楽部より「リスクマネジメント」の重要性について説明があった。そして、函館善意通訳会より善意通訳会の活動内容について説明があった。終了後、学生たちはお越しいただいた方々より激励のお言葉を頂戴したり、質問にお答えいただいたりするなど、貴重な時間を過ごすことができたようである。

3. 体験実習

「本学と亀田川の関係を知るコース」まちあるき

4回目の講義で奥平が「本学と亀田川関係を知るコース」を造成し、学生達に実際にまちあるき体験してもらった。その際には本学の古地先生のゼミ生も加わり、いつもより賑やかな体験実習となった。学生たちは、身近なところに意外な自然や遺構が残されていることに初めて気づかされたようであり、とても真剣に取り組んでいたようである。

4. 作業実習「ガイドコース造成」

5～6回目は「ガイドコース造成」のためにワークショップを行った。その際、奥平がこれまでに造成した西部地区・湯川地区・谷地頭地区・五稜郭地区のまちあるき配付資料を提示し、この4地区から実際に案内する地区を選定してもらった。学生たちは実際に各地区を回っ

て歩くことで、「湯川地区」を実際に案内する地区として選定し、コース造成に取りかかった。

5. 体験実習

「『湯川の歴史とグルメを味わおう』を案内する」

12月16日はあいにく、前日からの寒波襲来により気温が急降下したため、開始時刻を1時間繰り下げて、10時00分に函館アリーナを出発した。また、造成コースの所要時間を3時間としていたが、気温低下と吹雪を考慮し、1時間半で終了できるようにコースの短縮を行った。途中、幾度も吹雪となる悪条件の中、学生たちは「ガイドコース造成」作業で調べ上げて、自分た



ちで造成したコースを楽しむかのように、自信を持って説明を行っていた。

6. 体験発表会・総括

「函館市内の観光ガイド3団体からの講評など」

最終日の12月23日には再び、観光ガイド3団体の方々にもお集まりいただき、学生たちの「まちあるきin湯川地区」の体験発表会を行った。あらかじめ観光ガイド三団体の方々にはYouTubeにまちあるきの様子をアップしたものをご覧いただき、講評をいただいた。一會の会からは「自分の好きな函館を伝え、街を好きになってもらえるようなガイドを目指して、地元の人しか知らない地域情報を加えることで、よりよい「まちあるき」になる。」とアドバイスをいただいた。また、受講学生の一人は「実際に歩き、函館は歴史のある街だと改めて感じた。今回の経験を生かし、より参加者に伝わる街歩きガイドを目指したい。」と意気込みを話してくれた。そして、学生たちは来年度前期の「観光コンシェルジュ実習Ⅰ」も受講したいとその思いを伝えてくれた。



このように、今年度の「観光コンシェルジュ実習」が成功裏に終わることができたのは、本学関係の皆様や観光ガイド3団体の皆様の温かいご支援とご協力、ご指導があったことである。この場をお借りして心より御礼申し上げます。